HONDA
本田技研工業株式会社
東京都港区南青山2－1－1

30755601
00X30-755-6010

Ⓝ 1008712

ホンダ

スノーファイター

HS1110Z

取扱説明書

お買いあげありがとう
ございました

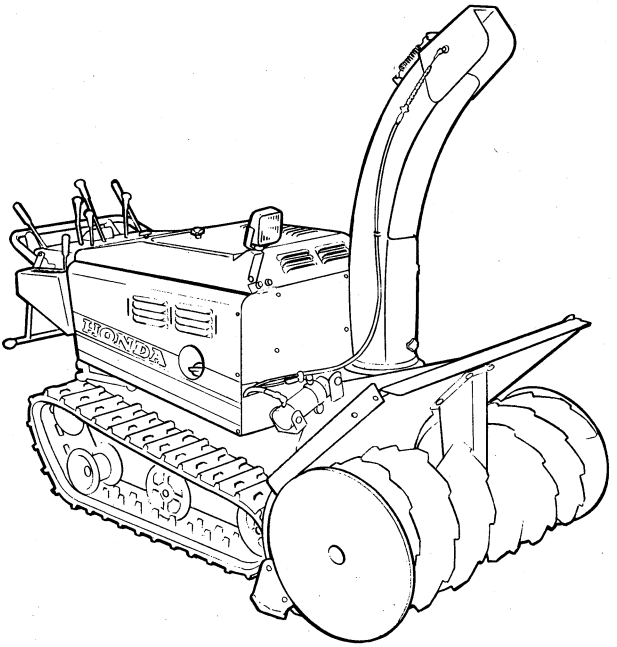
お買いあげいただきました製品や、サービスに関してお気づきの点、ご意見などがございましたら、お買いあげいただいた販売店または下記の**〈ご相談窓口〉**にお気軽にお申しつけください。

〈ご　相　談　窓　口〉

名　　称	電話番号	郵便番号	所　　在　　地
本田技研工業株式会社 お客様相談室	03 (423) 4211	107	東京都港区南青山2—1—1
本田技研工業株式会社 お客様相談室　北海道	011(781)2929	065	北海道札幌市東区本町２条10—2—29
本田技研工業株式会社 お客様相談室　仙　　台	022(288)6561	983	宮城県仙台市六丁の目西町1—10
本田技研工業株式会社 お客様相談室　名古屋	052(363)2929	454	愛知県名古屋市中川区五月通4—22
本田技研工業株式会社 お客様相談室　大　　阪	0720(29)7755	572	大阪府寝屋川市池田中町2—12
本田技研工業株式会社 お客様相談室　九　　州	092(962)2466	811-01	福岡県粕屋郡新宮町大字下府字塩出599

・所在地、電話番号が変更になることがありますのでご了承ください。

この取扱説明書は、ホンダ HS 1110 Z スノー ファイターの取り扱いをまとめたものです。
安全、快適にお使いいただくために正しい取り扱いをしなければなりません。ご使用前に必ずこの取扱説明書をお読みください。



なお、この取扱説明書は、仕様変更などにより内容が一部実機と異なる場合があります。ご了承ください。

目　　次

安全にお使いいただくために これだけはぜひ守りましょう …… 4

各部の名称と取り扱いをおぼえましょう …… 8

エンジン スイッチ ……11
燃料コック レバー ……11
チョーク ノブ ……12
エンジン回転調整レバー ……12
走行クラッチ(副変速)レバー ……13
変速レバー ……13
サイド クラッチ レバー ……14
投雪方向調節ハンドル ……14
投雪距離調節レバー ……15
オーガ クラッチ レバー ……15
オーガ調節レバー ……16
作業灯スイッチ ……16
燃料計 ……17
雪落とし棒 ……17
非常停止バー ……18
ボンネットの開けかた ……19

エンジンをかける前に点検しましょう ……20

ガソリンの点検 ……20
エンジン オイルの点検 ……21
バッテリ液の点検 ……22
その他の点検 ……23

エンジンのかけかた ……24

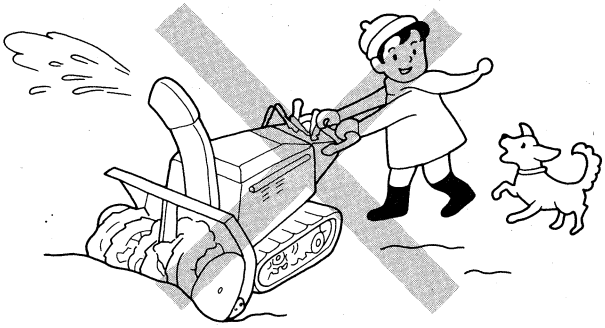
運転操作のしかた ……27

始　動 ……27
運転操作 ……27
除雪のしかた ……32
エンジンの止めかた ……35
定期手入れを行いましょう ……38
日常点検 ……38
定期点検 ……39
やさしい点検・整備 ……40
携帯工具と付属部品 ……40
エンジン オイルの交換 ……41
点火プラグの清掃、調整 ……42
変速機オイルの点検 ……43
油圧ポンプ オイルの点検 ……44
オーガ ミッション オイルの点検 ……45
クローラ張り調整 ……46
除雪部の点検 ……47
ヒューズについて ……48
長期間使用しない時の手入れ ……49
故障のときは ……52
主要諸元 ……53
配線図 ……54
製品受領書
保証書

安全にお使いいただくために　これだけは

HS 1110 Z は正しく取り扱ってください。ちょっとした油断がもとで、思わぬ事故を招くことがあります。安全で、能率的な除雪作業のために次のことを必ずお守りください。

・本機は私有地でご使用ください。
・この取扱説明書を事前に読み、正しい取り扱い方法を十分御理解のうえ自分で操作してください。
・本機を子供には絶対操作させないでください。
・まちがいなく取り扱う為に各種操作になれてください。

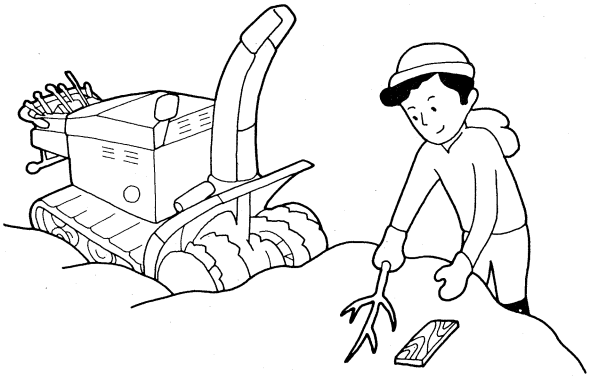


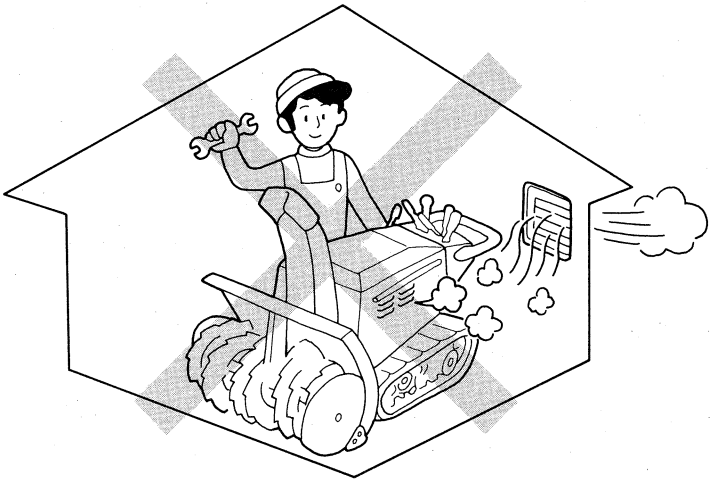
・除雪部および投雪口に雪がつまった場合は、エンジンを停止し、点火プラグ キャップを取り外し、各回転部が停止してから必ず備え付けの雪落とし棒でつまった雪を取り除いてください。



ぜひ守りましょう

・雪が降る前に除雪しようとする区域を事前に十分点検し、石、棒、板、針金などの障害物を取り除いてください。
・屋根に積った雪や急斜面の除雪は行わないでください。
・除雪部分や投雪口に顔や手足を近づけないでください。
・屋内や換気の悪い場所では、エンジンをかけないでください。有害な一酸化炭素がたまってガス中毒の危険があります。





●作業を始める前に

・本機の操作は必ずハンドルを持ち後部に位置してください。

・作業をする時は、防寒用の服装で身仕度をしてください。また防寒ぐつはすべり止めのあるものを着用してください。

・砂利道等の除雪は、石の飛び出しなど非常に危険を伴いますので除雪しないでください。

・視界の悪い場所や、夜間十分な照明のない場所での使用は危険ですから行わないでください。

・仕業点検を必ず行い、不具合のある場合は使用前に修理を完全にしておき、不備な状態での使用は絶対に行わないでください。

・ガソリンを補給するときは、必ずエンジンを停止してください。〈火気厳禁〉

　・エンジン、消音器(マフラ等)は冷えていますか。

　・ガソリンはこぼさないように注意してください。もしガソリンがこぼれたらきれいに拭き、乾かしてから始動してください。



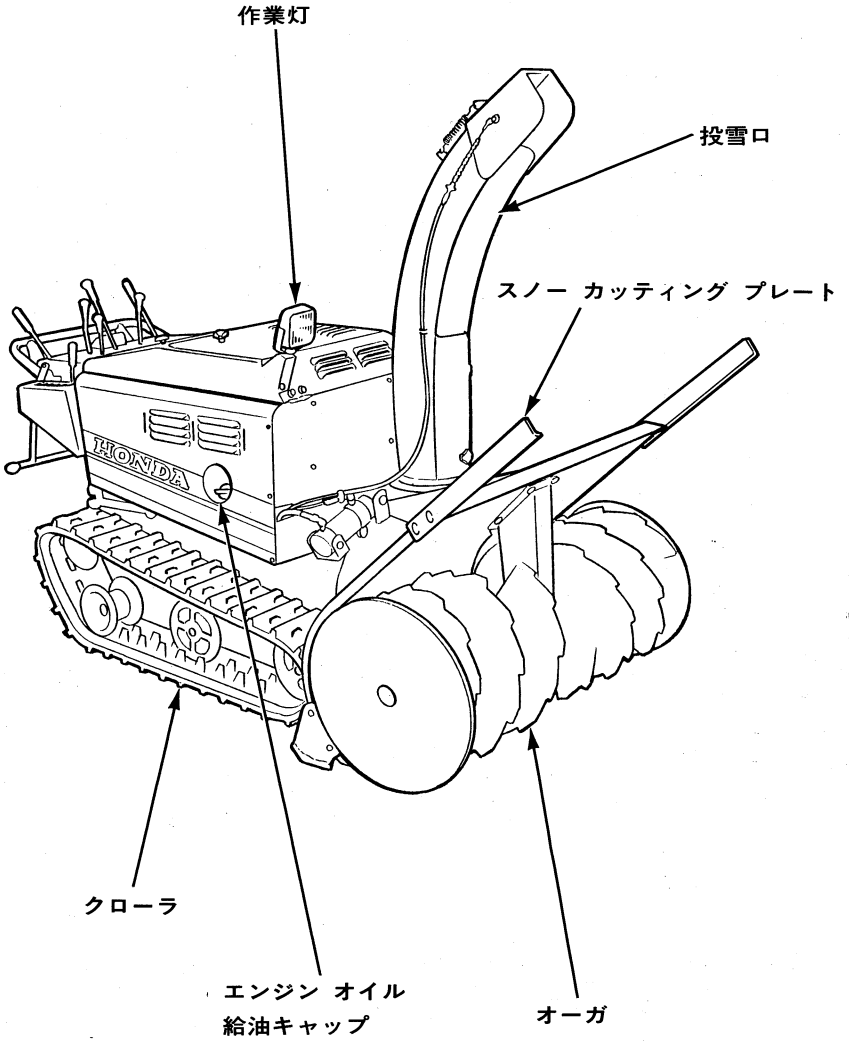
●作業中の注意

・共同作業は雪のためスリップし思わぬ事故を招く事があります。絶対に行わないでください。
・除雪部は回転しているので大変危険です。手、足等を絶対に近づけないようにしてください。また、人や動物が近づかないように十分注意してください。人や動物が近づいたときは除雪をやめてください。
・投雪口には顔や手を絶対に近づけないでください。
・投雪方向を直接人等に向けたり、窓ガラスに向けて使用しないでください。投雪方向の調節はそのたび適切に行ってください。
・除雪中は足元に注意しハンドルをしっかりと握り、けっして走らないでください。
・除雪中障害物に当たった時はすぐにエンジンを止め、点火プラグ キャップを取り外し、回転部が停止してから注意して損傷を調べてください。修理しないで再始動すると思わぬ事故につながります。
・除雪の速度に注意し過負荷にならないようにしてください。エンジンに悪影響をあたえます。
・斜面での方向転換には十分注意してください。

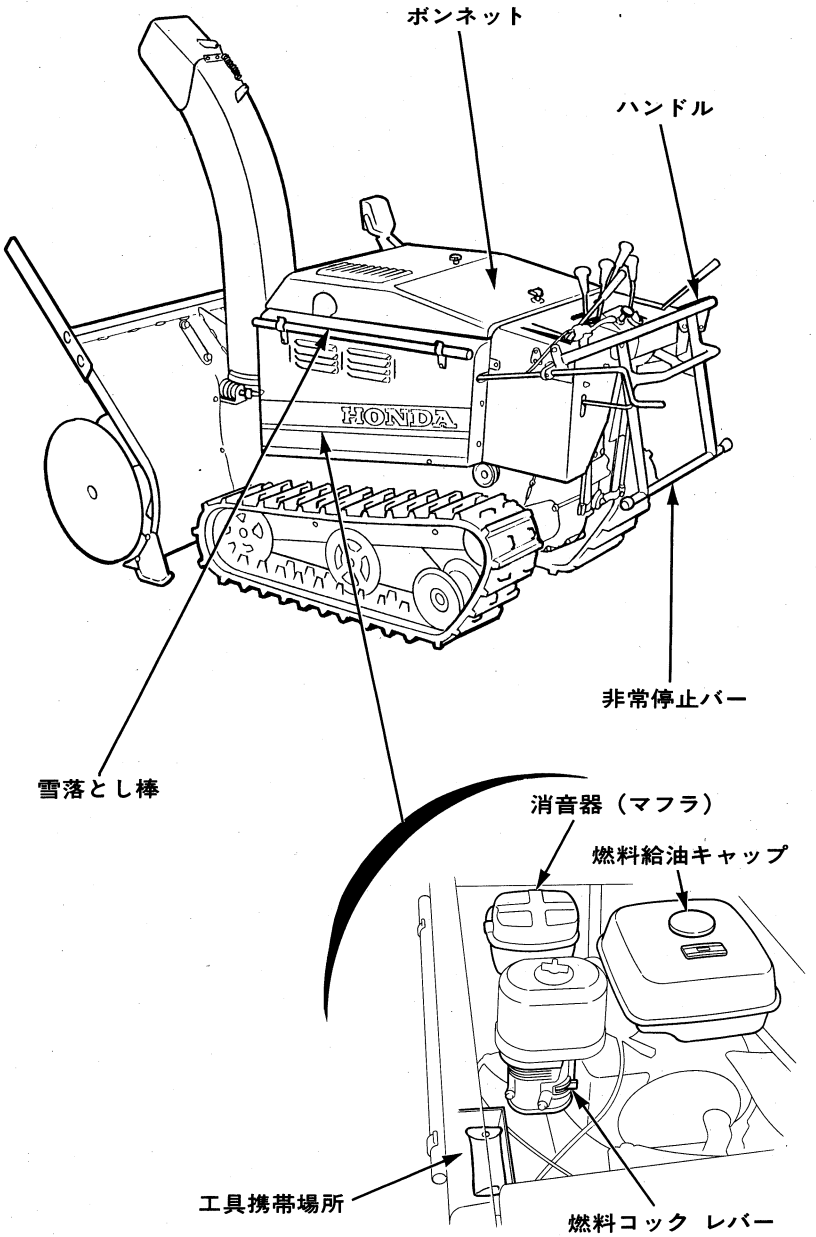
●作業が終ったら

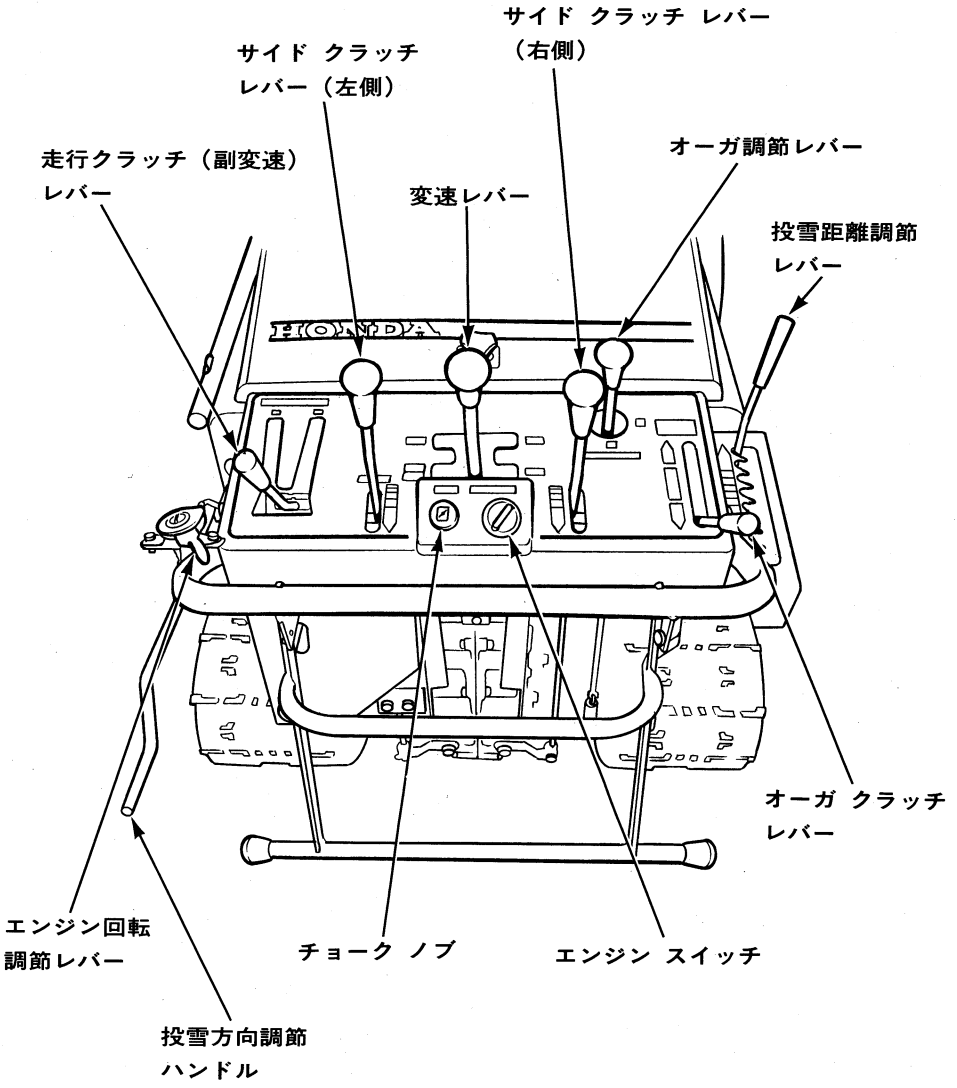
・長期保管前にはタンク内のガソリンを抜きとり、火気の恐れのある所には保管しないでください。また抜いたガソリンは引火性があり爆発の危険があります。
・駐車機構がありませんので坂道での駐車はしないでください。
・作業後は、除雪部の雪を取り除いて格納してください。
次の使用に支障があるばかりでなく故障の原因にもなります。
・本機から離れる時には、必ずエンジンを止め、エンジン スイッチ キーを外してください。

各 部 の 名 称 と 取 り



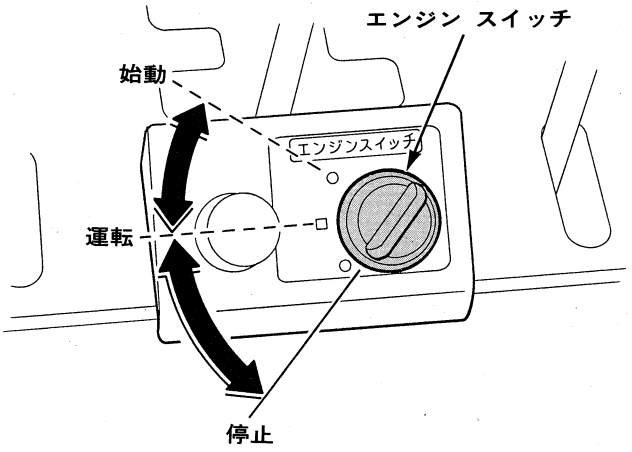
扱いをおぼえましょう


ボンネット
ハンドル
HONDA
非常停止バー
雪落とし棒
消音器（マフラ）
燃料給油キャップ
工具携帯場所
燃料コック レバー


サイド クラッチ レバー（右側）
サイド クラッチ レバー（左側）
走行クラッチ（副変速）レバー
変速レバー
オーガ調節レバー
投雪距離調節レバー
オーガ クラッチ レバー
エンジン回転調節レバー
チョーク ノブ
エンジン スイッチ
投雪方向調節ハンドル

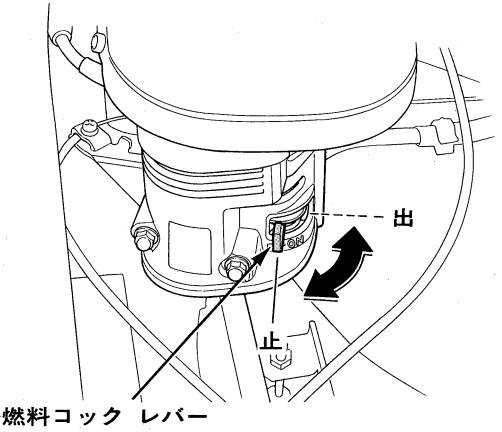
エンジン スイッチ

エンジンの始動、運転、停止をする時に操作します。



燃料コック レバー

燃料タンクから気化器までの燃料通路を開閉する時に操作します。
操作は確実に〝止〟〝出〟の位置に合わせます。

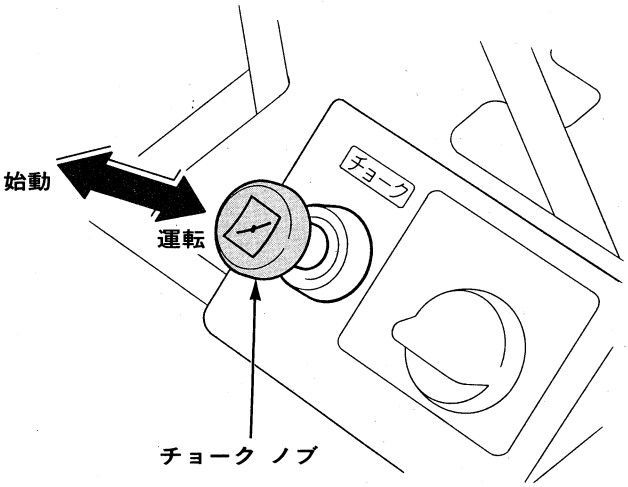


注意

・運搬時、保管時および点検整備時に本機を傾むける時はレバーを〝止〟の位置に合わせてください。〝止〟にしないと燃料がもれることがあります。

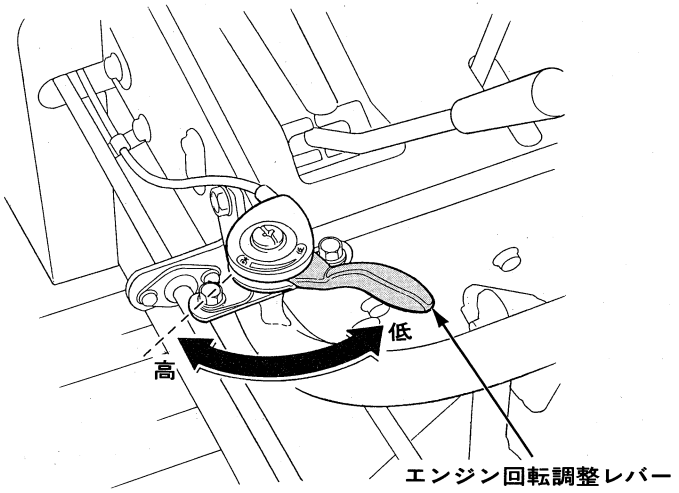
チョーク ノブ

エンジンが冷えている時、またエンジンがかかりにくい時に操作します。



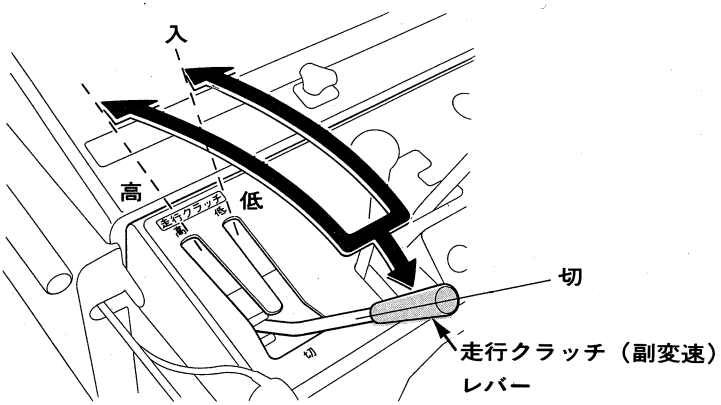
エンジン回転調整レバー

エンジン回転を調整する時に操作します。通常は〝高〟の位置でご使用ください。



走行クラッチ（副変速）レバー

レバーを前方へ倒すと走行し、戻すと停止します。このレバーは変速レバーと連動して変速比を〝高〟〝低〟２段階に切換えることができます。

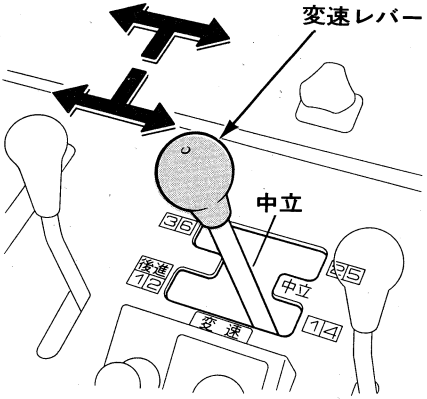


注意

・急な坂(特に車への積み降しに使う歩み板)の途中で走行クラッチを〝切〟にすると、除雪機が自然に動きだし危険です。

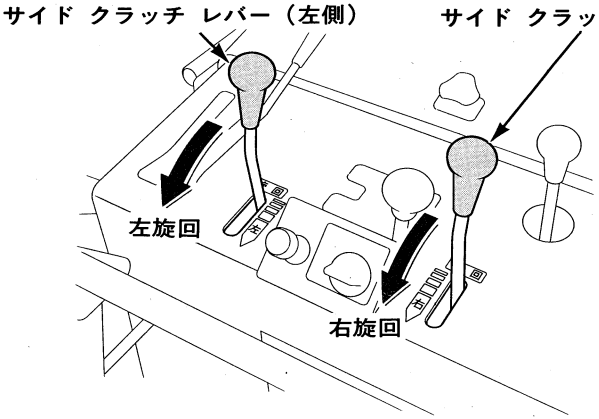
変速レバー

除雪機を前進、後進するときに操作します。副変速との組み合せにより前進６段、後進２段の操作ができます。使用しないときは、〝中立〟の位置にしてください。



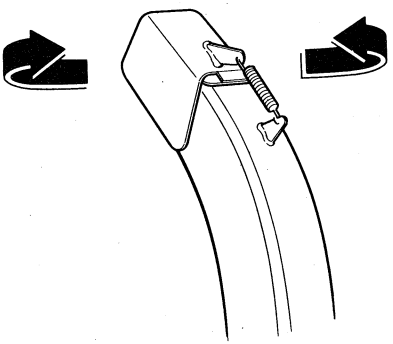
サイド クラッチ レバー

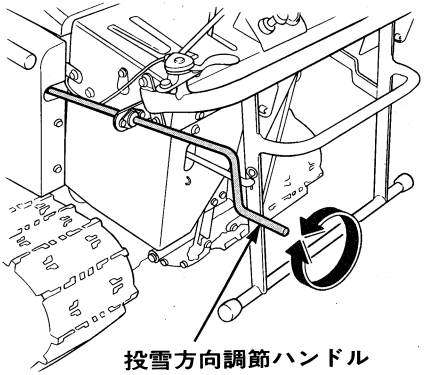
本機の方向を変えるときに操作します。レバーを引くと引いた方向に曲がります。



投雪方向調節ハンドル

投雪方向を変える時に操作します。
ハンドルを左に回わすと投雪方向が左になります。
ハンドルを右に回わすと投雪方向が右になります。

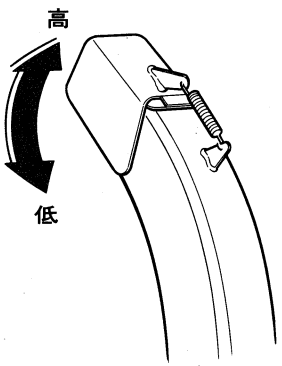


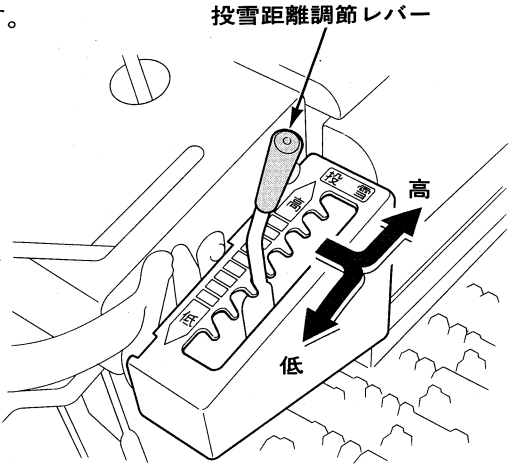


注意 ・投雪方向を変える時には人や窓ガラス等に注意して行ってください。

投雪距離調節レバー

投雪距離を変える時に操作します。

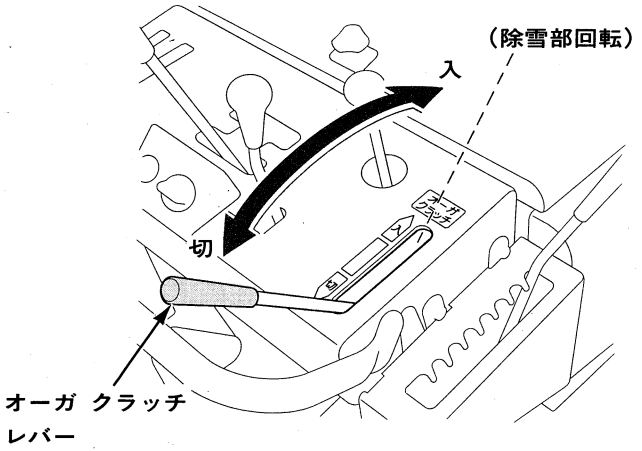




注意　・投雪距離を変える時には人や窓ガラス等に注意して行ってください。

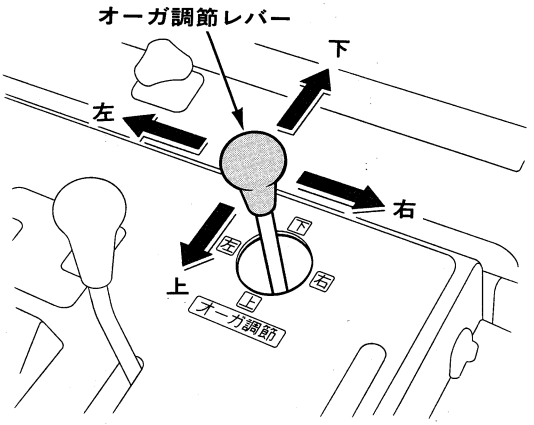
オーガ クラッチ レバー

オーガ クラッチ レバーを〝入〟にすると除雪部が回転します。〝切〟にすると止まります。



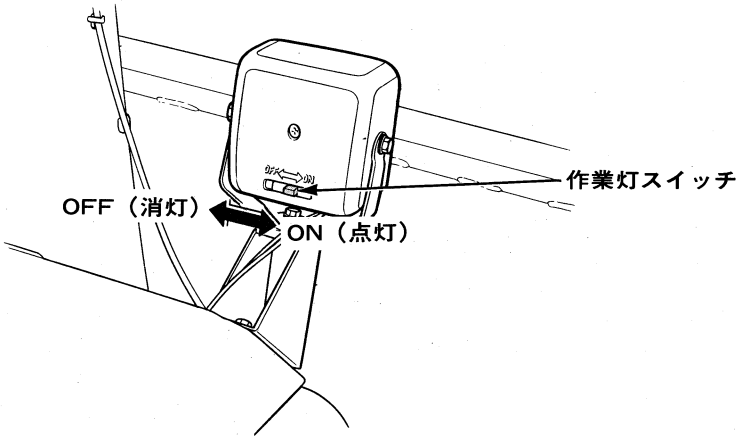
オーガ調節レバー

オーガ調節レバーを〝下〟にするとオーガ（除雪部）が下がり、〝上〟にすると上がります。オーガ調節レバーを〝左〟にするとオーガが左に傾き、〝右〟にすると右に傾むきます。レバーから手をはなすとその位置でオーガ部が停止します。



作業灯スイッチ

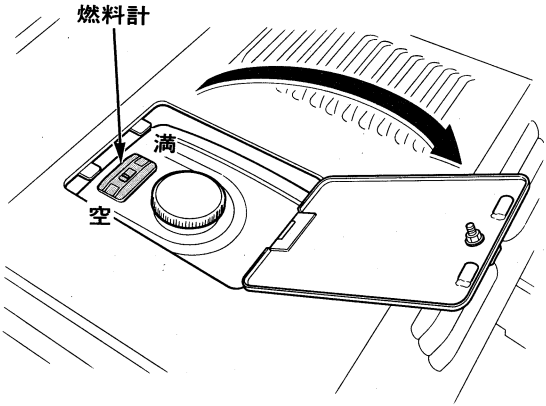
作業灯を点灯、消灯する時に操作します。
作業灯を使用する場合は、エンジンをかけてから使用してください。
エンジン停止中は点灯しません。



燃 料 計

ガソリンの残量を示します。

燃料計の針が〝空〟に近づいたら早目に補給してください。

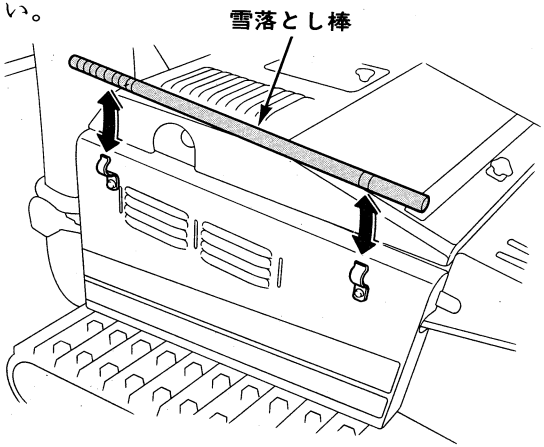


雪落とし棒

雪が除雪部や投雪口に詰ったときに使用します。

注意 ・雪落としを行う場合は、エンジンを停止し、プラグ キャップを取り外し、各回転部が停止してから行ってください。

雪落とし棒使用後は汚れを拭き取り、きれいにしてから必ず元の取付位置にセットしてください。

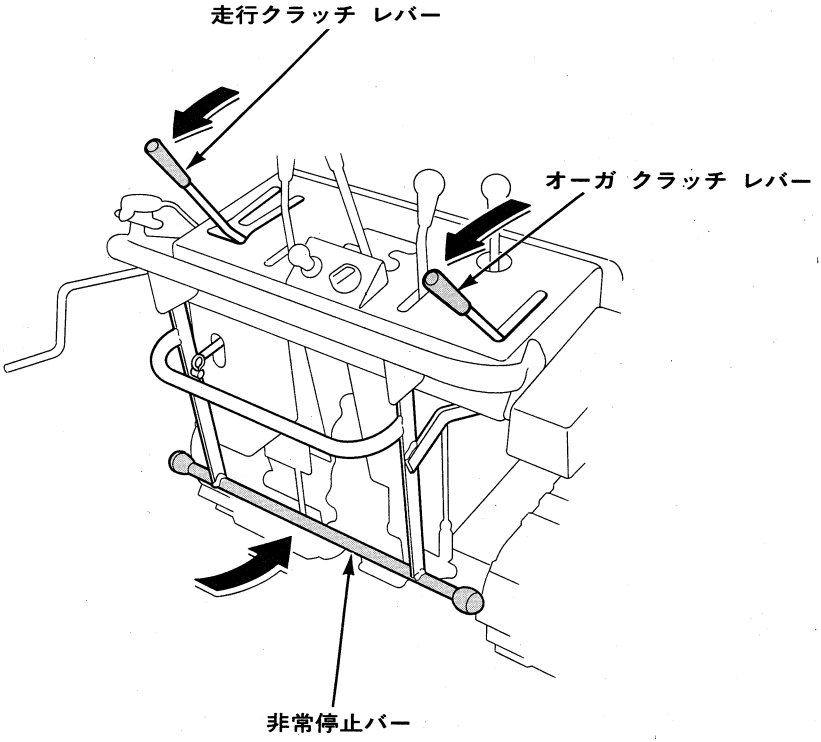


非常停止バー

運転中にすべってころんだときなど、緊急に走行を止めたい場合に使用します。非常停止バーを押しますと走行が停止し、オーガの回転が止まります。

注意

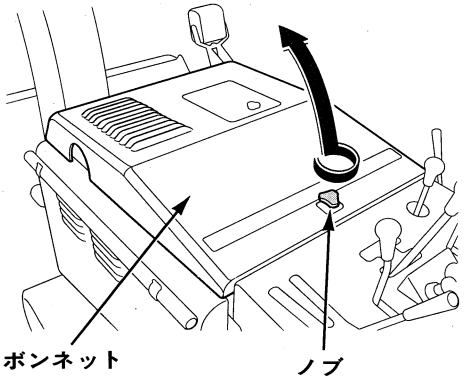
- 非常の場合以外は使用しないでください。
- 非常停止バーを押しますと走行クラッチ レバーとオーガ クラッチ レバーが自動的に〝切〟の位置に戻ります。レバーに身体を近づけないよう注意してください。
- 非常停止バーはバンパではありませんので絶対に乗ったり、ロープをかけないでください。

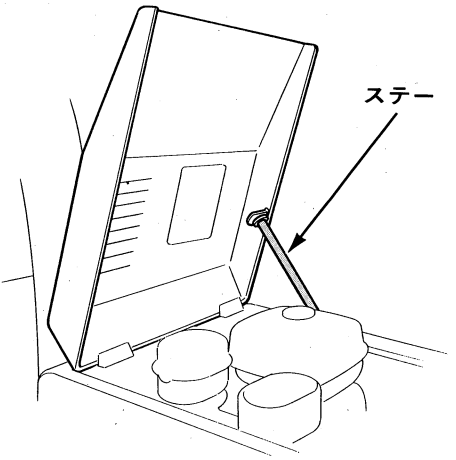


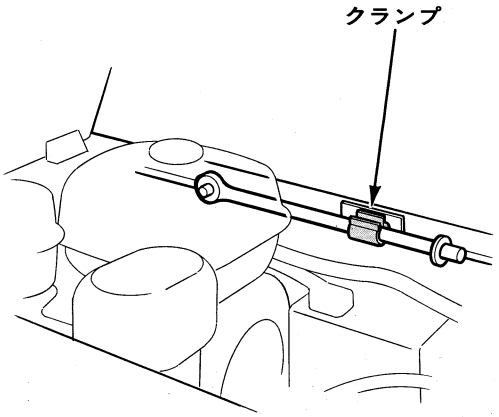
ボンネットの開けかた、閉めかた

ノブを左に回してボンネットを引き上げ保持棒（ステー）を確実にかけて固定します。

閉めるときは、ステーを外してクランプに納め、ボンネットを静かに閉じ、ノブを右に回して固定してください。







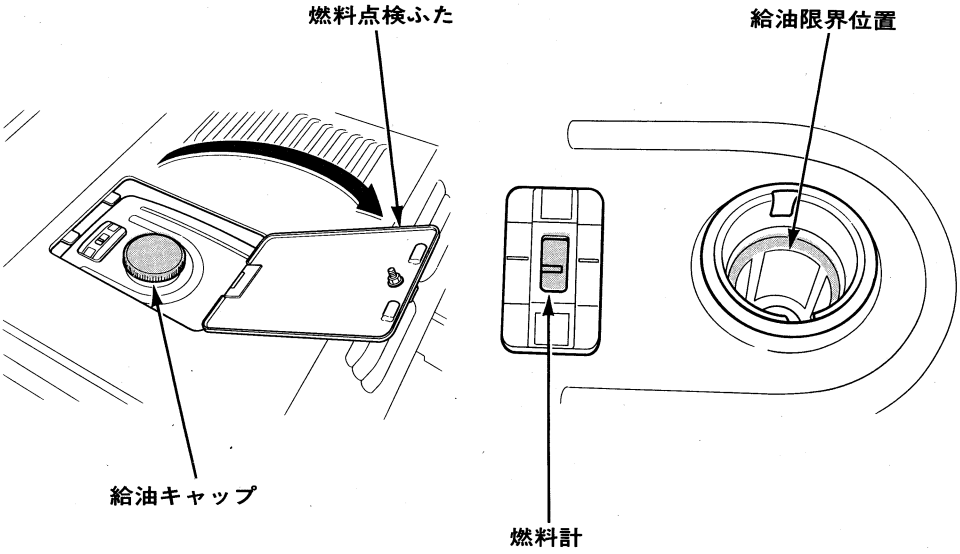
エンジンをかける前に点検しましょう

★点検は平坦な場所でエンジンを水平にしてエンジンをとめて、点火プラグ キャップを外して行ってください。

ガソリンの点検

点　検

燃料点検ふたを開けて燃料計の針が〝満〟の位置にあるか確認します。少ない場合は給油キャップを外して補給します。



補　給

使用ガソリン：無鉛(レギュラ ガソリン)

タンク容量：7.0 ℓ

・給油キャップを外し、注入口の給油限界位置まで補給します。

・補給後、給油キャップを完全に締付けてください。

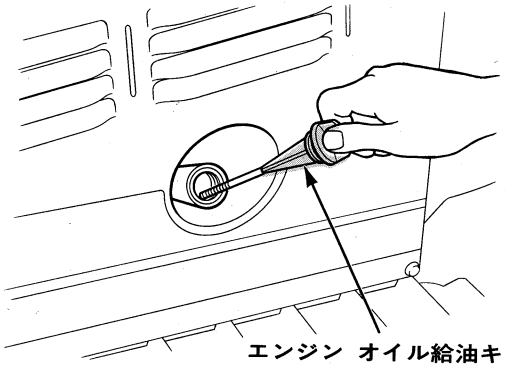
注意

・火気厳禁
・必ずエンジンをとめて補給してください。
・万一口元よりあふれた時は、こぼれたガソリンを布切れ等で速やかに拭きとり乾かしてから始動してください。
・降雪時ガソリンの補給を行う時は、燃料タンク内に雪が入らないように注意してください。燃料タンク内に雪等が入るとエンジン不調の原因になります。

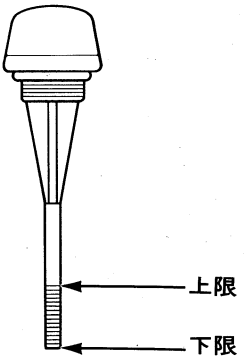
エンジン オイルの点検

点　検

エンジン オイル給油キャップを外し、キャップをねじこまず差し込んで点検します。油面が下限に近い時には、上限までオイルを補給してください。



エンジン オイル給油キャップ



補　給

・油面が下限に近いときには新しいオイルを上限まで補給します。

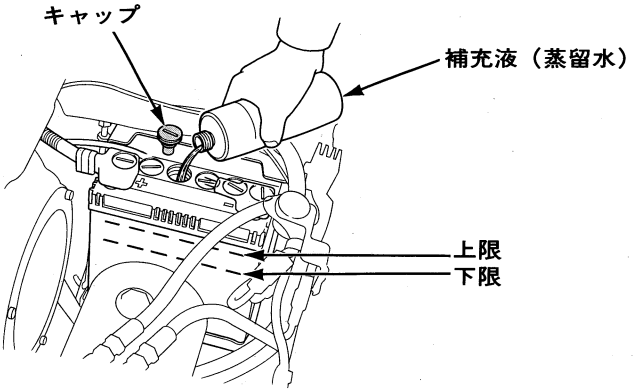
・汚れや変色が著しい場合は交換してください。（交換時期、方法は 41 頁参照）

推奨オイル：SAE 5 W－30 または API 分類 SE 級相当のエンジン オイル

● キャップは確実に締付けてください。締付けがゆるいとオイルがもれます。

バッテリ液の点検

バッテリの液面が各槽とも**上限**（UPPER・LEVEL）と**下限**（LOWER・LEVEL）の間にあるか点検してください。
同時にキャップの通気孔のつまりを点検してください。



補　給

少ないときはキャップを外し、バッテリ補充液（蒸留水）を**上限**（UPPER・LEVEL）まで補給します。

端子の手入れ

端子のゆるみ、腐蝕は接触不良の原因となります。ゆるんでいるときは、締めつけてください。
端子に白い粉がついているときは、お湯で清掃し、接続後グリースを塗布してください。

注意

- バッテリ補充液（蒸留水）を入れすぎると電解液がこぼれ、金属を腐蝕させる原因となります。上限（UPPER・LEVEL）以上入れないでください。万一バッテリ液をこぼした時には、必ず水洗いをしてください。
- バッテリを取扱うときはショートによる火花や火気に注意してください。バッテリからは可燃性のガスが発生しているので爆発の危険があります。
- バッテリ液は希硫酸です。目や皮ふにつくとその部分が侵されますので十分注意してください。万一、付着したときは、すぐ多量の水ですくなくとも5分間以上洗浄し、専門医の診察を受けてください。

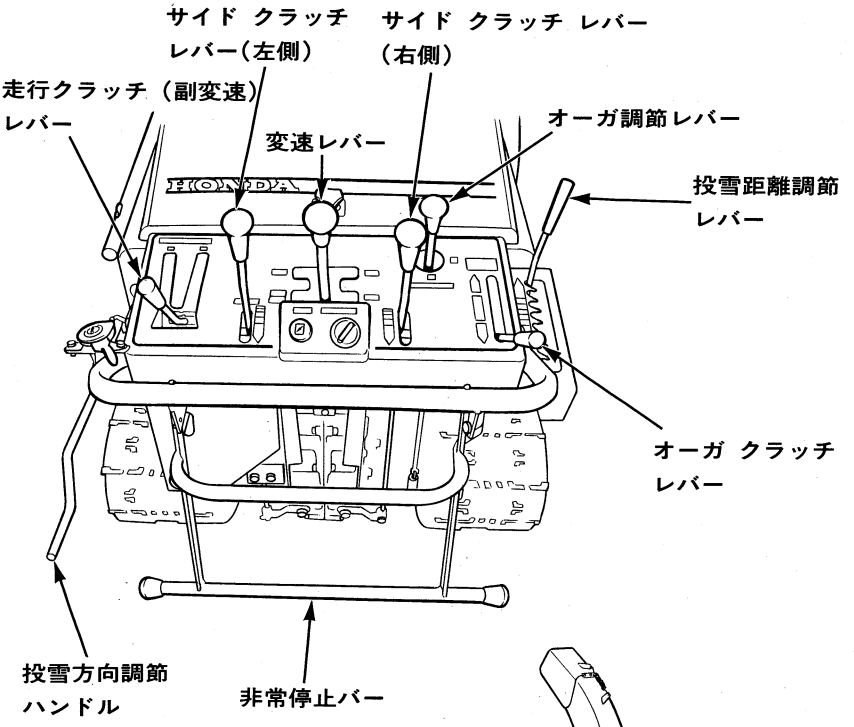
その他の点検

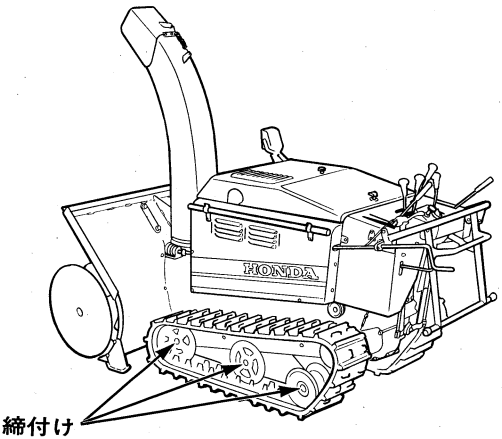
次の点検も忘れずに行ってください。

1.各部の締付け、ゆるみ、ガタはないか

2.各部の作動状態

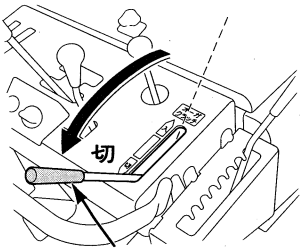
3.異常個所……前日悪かった所はないか



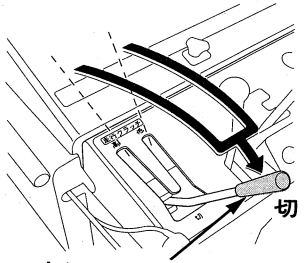


エンジンのかけかた

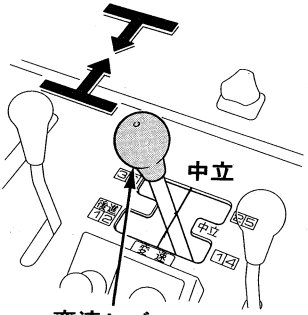
1.オーガ クラッチ レバー、走行クラッチ レバーが〝切〟になっているか確認してください。どちらか一方でも〝入〟になっているとエンジンは始動しない機構になっています。変速レバーは〝中立〟にしてください。



オーガ クラッチ レバー

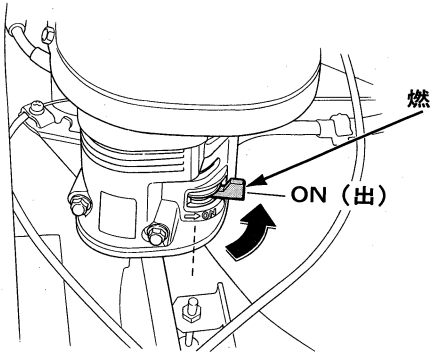


走行クラッチ レバー

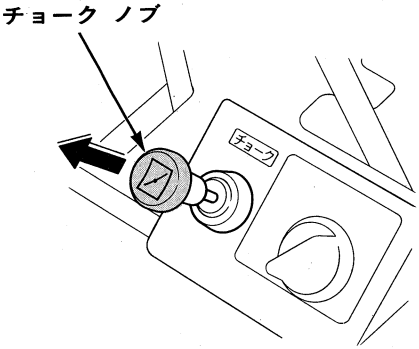


変速レバー

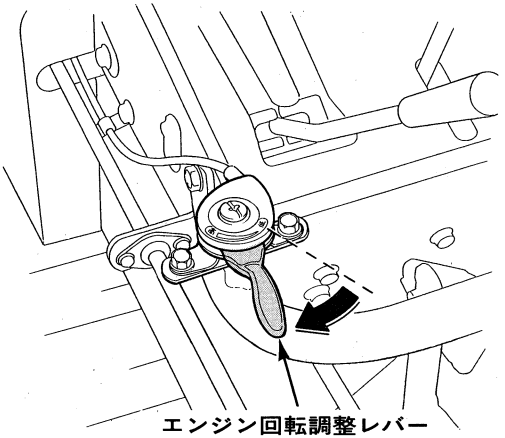
2.ボンネットを開け、燃料コック レバーを〝ON〟(出)にします。



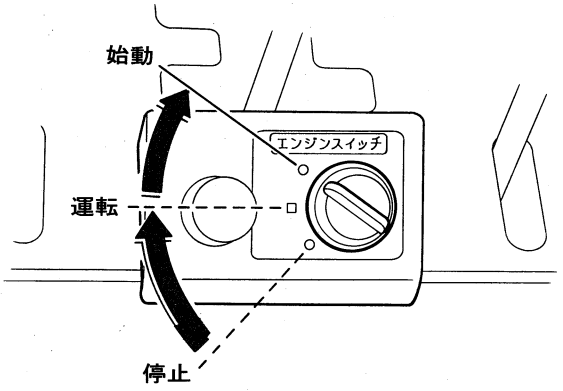
3.チョーク ノブをいっぱいに引いてください。



4.エンジン回転調整レバーを少し〝高〟の方向へ回します。

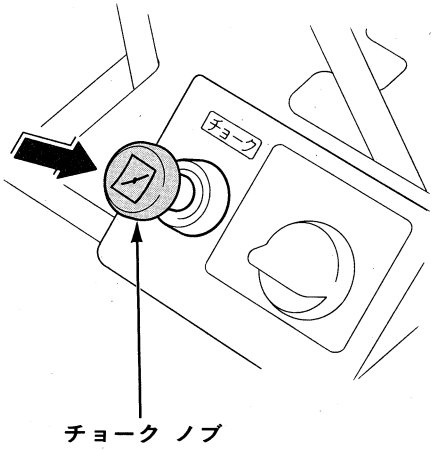


5.エンジン スイッチを〝始動〟の位置まで回し、スタータをまわします。
エンジンが始動したらスイッチから手を離し〝運転〟の位置に戻します。



注意 ・スタータを回して約5秒以内でエンジンがかからないときは、10秒ぐらい休んでから再び回してください。

6.始動後、２～３分間暖気運転を行い、エンジン回転が安定するのを確認しながらチョーク ノブを徐々に戻してください。



運　転　操　作　の　し　か　た

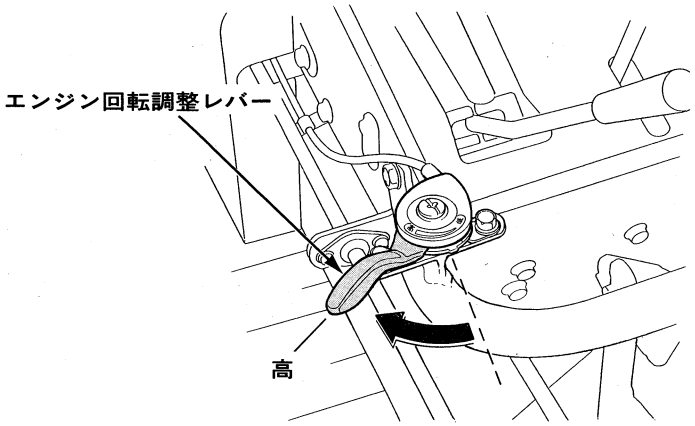
除雪をする前に必ず〝安全にお使いいただくためにこれだけはぜひ守りましょう〟の項目をよくお読みになり、除雪作業に取り掛かってください。

1.始　動

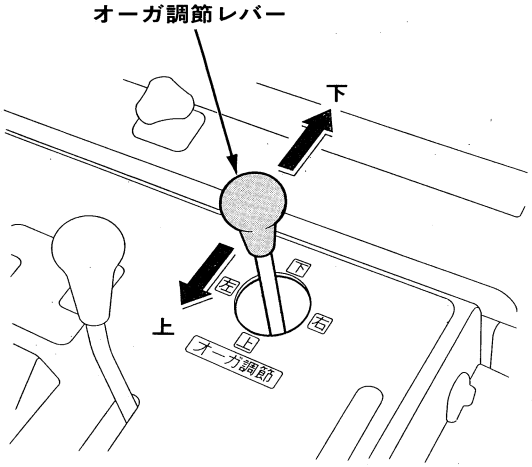
始動については 24 頁～26 頁を参照してください。

2.運転操作

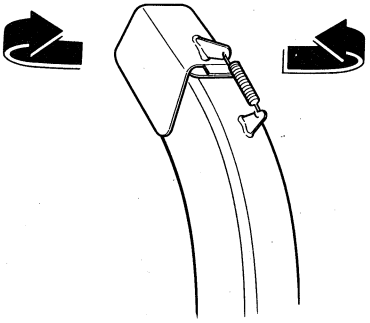
—1.エンジン回転調整レバーを**〝高〟**にあわせます。



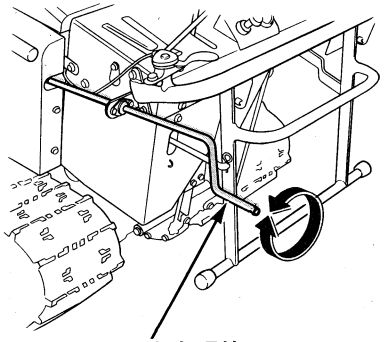
—2.オーガ調節レバーで除雪部の高さをあわせます。



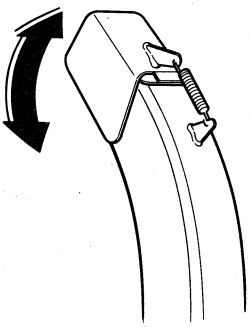
—3.投雪方向調節ハンドルを操作します。

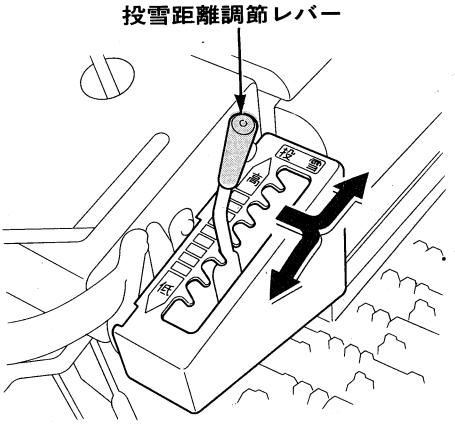


ハンドル	投雪方向
右に回わす。	→ 右
左に回わす。	→ 左



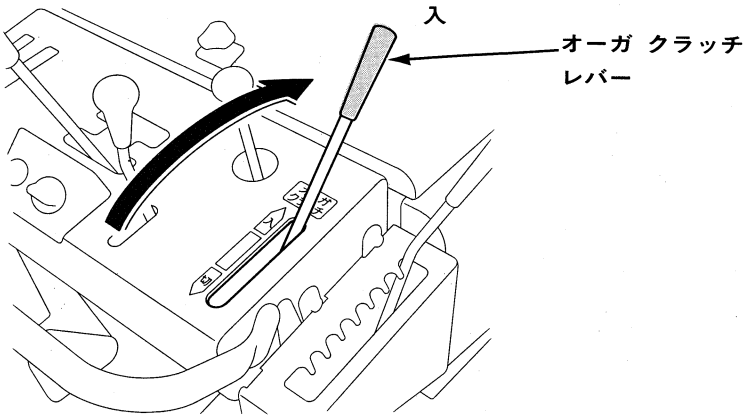
—4.投雪距離調節レバーを操作します。



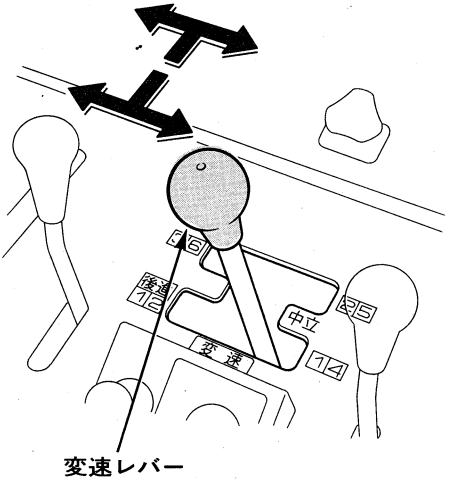


注意 ・投雪距離や方向を変える時には人や窓ガラス等に注意して行ってください。

—5.オーガ クラッチ レバーを〝入〟にします。
このときに除雪部が回転します。

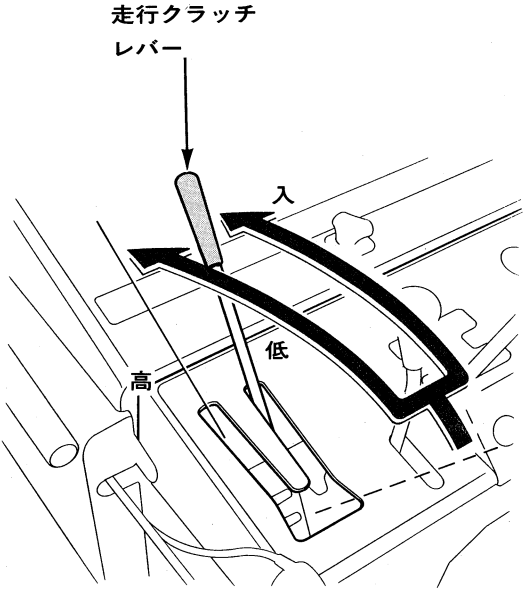


—6.雪質、積雪量に合わせて変速レバーの位置を選びます。(30 頁参照)



注意
・変速レバーは必ず切りかき部に入れてください。
・走行中に変速しないでください。変速する場合は、走行クラッチ レバーを必ず〝切〟にしてから行ってください。

—7.走行クラッチ レバーを〝入〟にします。このとき〝高〟、〝低〟の変速がありますので作業に応じて選んでください。除雪機が走行します。



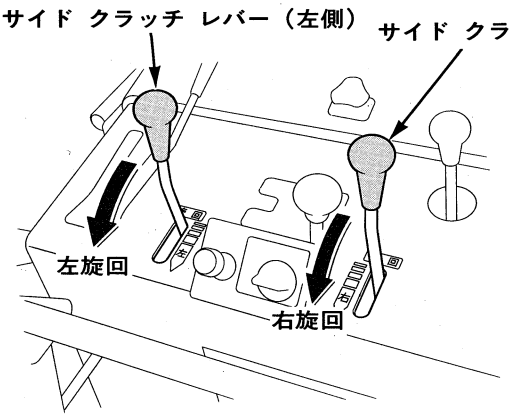
・除雪作業と変速レバーの関係

走行クラッチ レバー	変速レバー	作　業　内　容
高	4 5 6 後進 2	移動のみ
低	1	通常除雪
	2 3	除雪量が少ないとき、新雪、粉雪など
	後進 1	移動のみ

—8.旋回のしかた

・旋回しようとする側のサイド クラッチ レバーを手前に引くと、引いた方向に旋回します。

・サイド クラッチ レバーを操作する場合は、レバーを確実に引いてください。

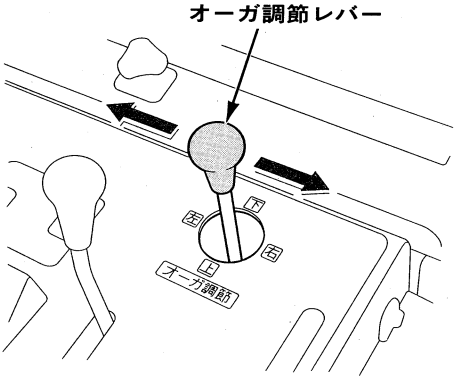


—9.オーガの傾き調節

除雪作業中除雪機が傾いてきたときは、オーガ調節レバーでオーガの傾きを調整します。

除雪機が右側に傾いた時……オーガ調節レバーを左側に倒す。

除雪機が左側に傾いた時……オーガ調節レバーを右側に倒す。



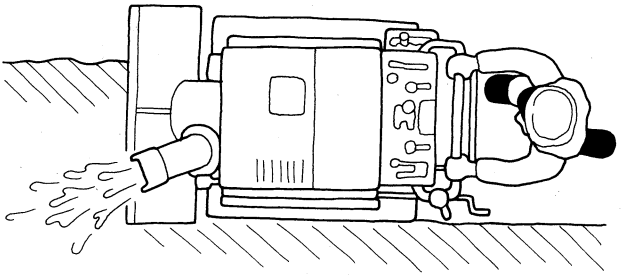
4.除雪のしかた

除雪作業はエンジンの回転を落さず行うことが重要です。

次の要領を参考にして除雪作業を行ってください。

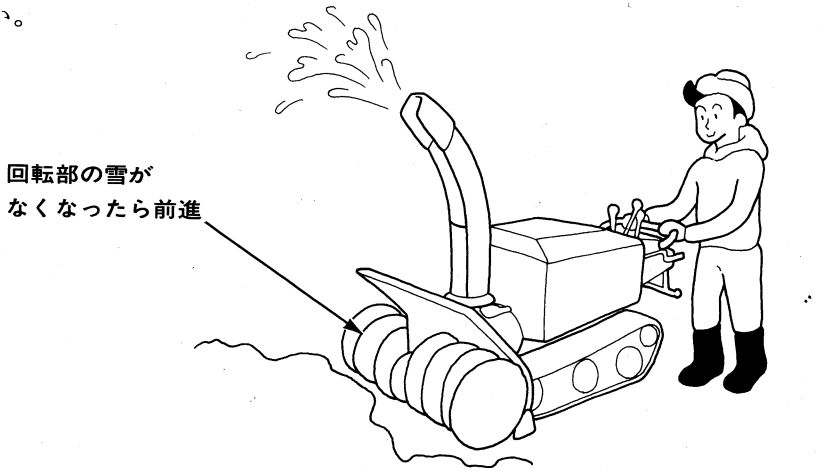
●除雪幅を狭くする方法

深い雪や、固くなったりした雪の場合は低１速で除雪してください。またこのような場合除雪部に掛かる雪幅を狭くして行ってください。



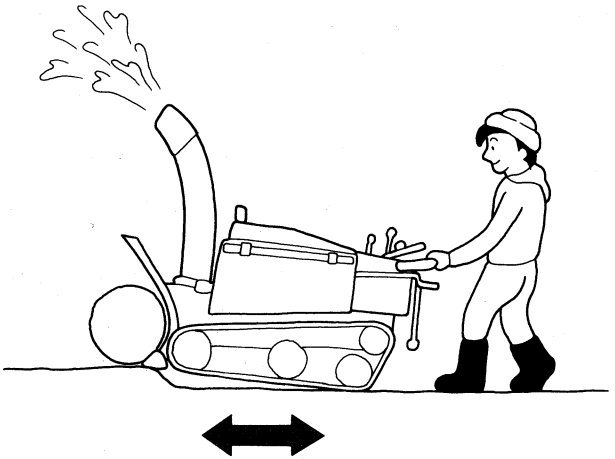
●断続除雪の方法

深い雪や重い雪の除雪作業時にエンジン回転が低下する場合は、一旦走行クラッチ レバーのみ**〝止〟**にして除雪部の雪がなくなりエンジン回転が回復したあと、ふたたび走行クラッチ レバーを**〝低〟**にして除雪してください。



●前後進除雪の方法

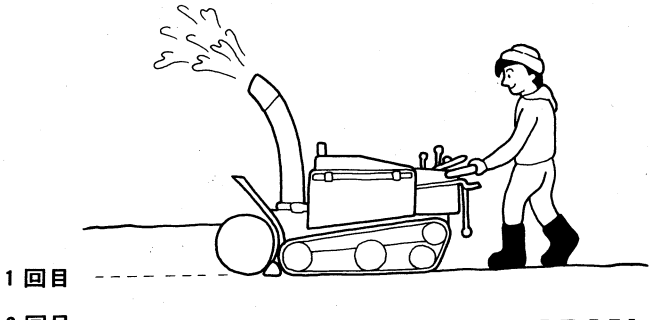
固くなった雪などで除雪部が乗り上げるような場合には、前、後進を繰り返して除雪してください。



注意　・後進時には足元に十分注意してください。

●段切除雪の方法

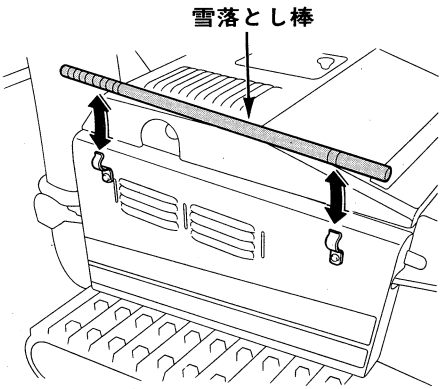
積雪量が多く、除雪部よりも雪が多い場合は段階的に除雪してください。

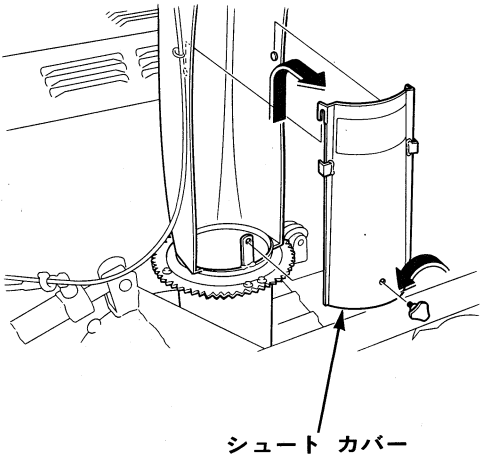


・除雪作業中、投雪口に雪が詰ったときは、シュート　カバーを外して雪落し棒で除去します。

注意

・投雪口に詰った雪を除去するときは、エンジンを停止し、プラグ　キャップを取り外し、各回転部が完全に止まってから、必ず備え付けの雪落とし棒を使って雪を取り除いてください。



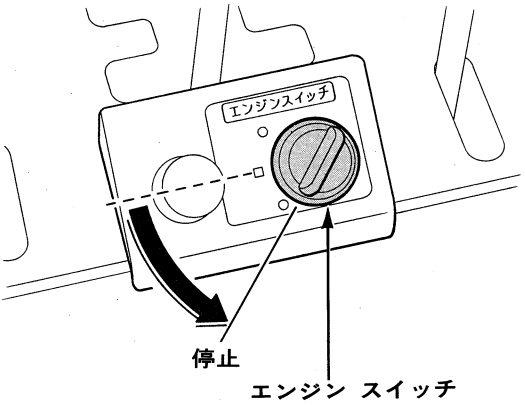


シュート　カバー、雪落とし棒は使用後必ず元の位置にセットしてください。

エンジンの止めかた

●緊急停止の場合

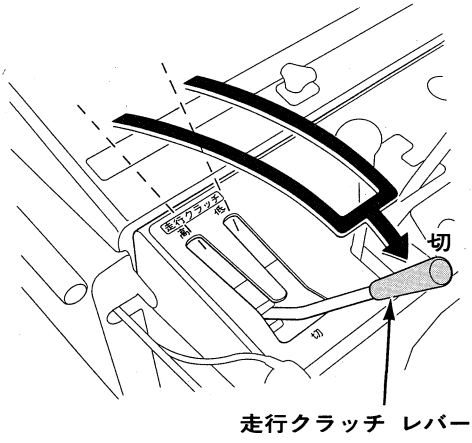
エンジン スイッチを〝**停止**〟にしてください。

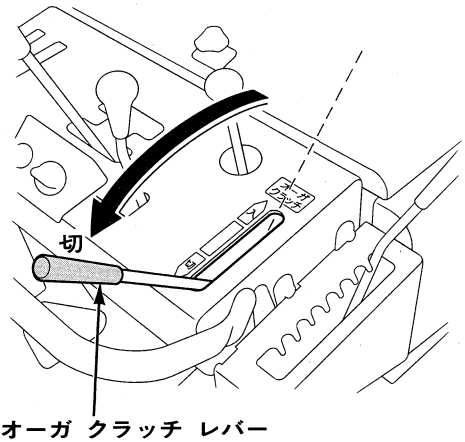


エンジン スイッチで本機を停止させた場合は、再び始動する前に走行クラッチ レバーとオーガ クラッチ レバーを〝**切**〟にし変速機レバーを〝**中立**〟にしてください。

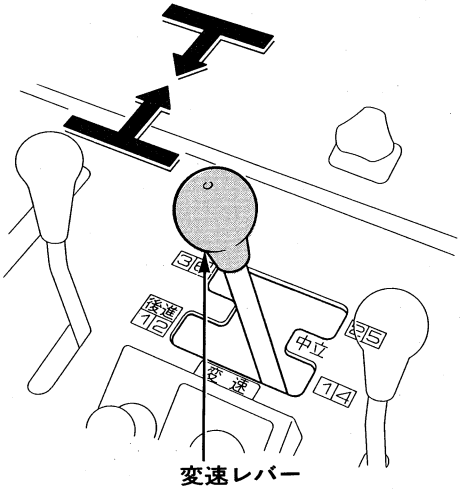
●通常停止の方法

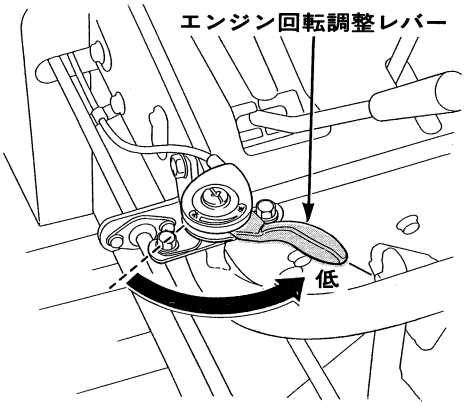
1.オーガ クラッチ レバー、走行クラッチ レバーを〝**切**〟にします。



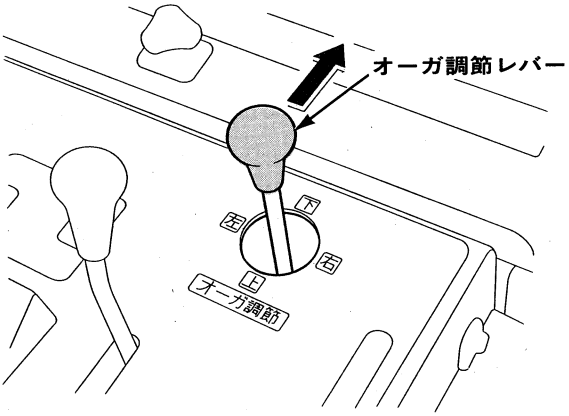


2.変速レバーを〝**中立**〟にして、エンジン回転調整レバーを〝**低**〟にします。





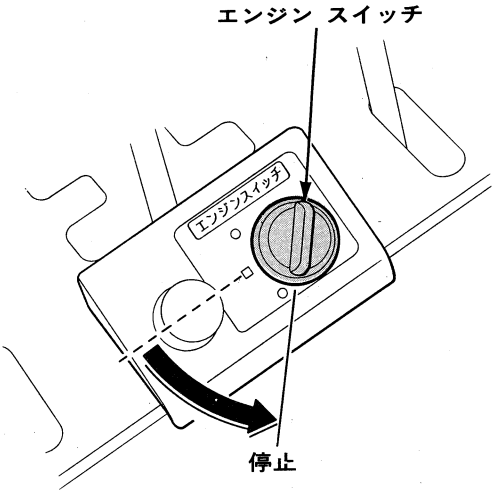
3.オーガ調節レバーを〝**下**〟にして除雪部を下側いっぱいまで下げます。



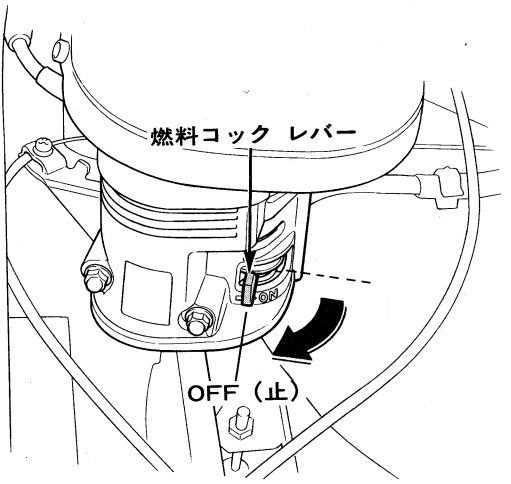
注意

・除雪部を上げたままエンジンを停止し、オーガ調節レバーを動かすと、除雪部が、不意に下がり大変危険です。

4.エンジン スイッチを〝**停止**〟にして、キーを抜きます。



5.ボンネットを開け、燃料コック レバーを〝**OFF**〟(**止**)にします。

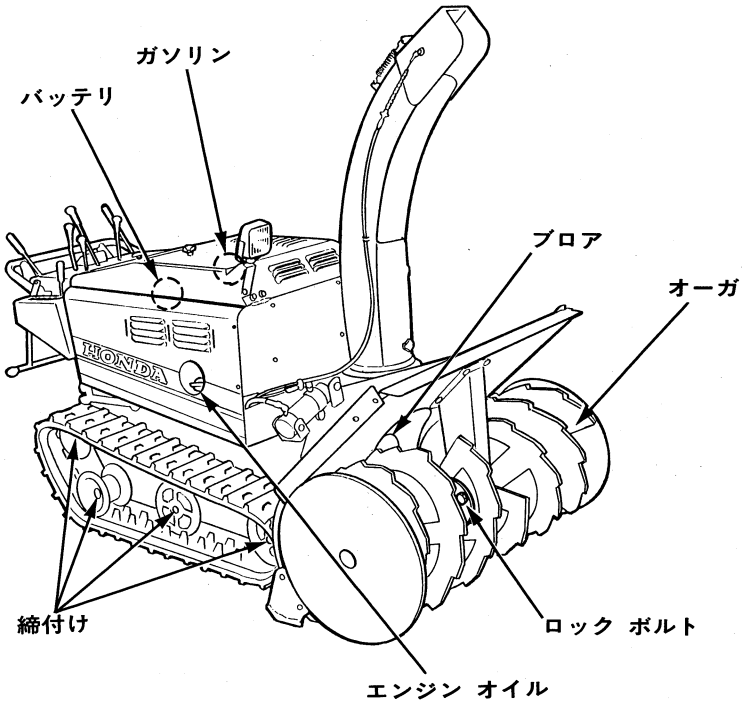


定期手入れを行いましょう

日常点検

いつも安心して使用するためには日常の点検整備が必要です。忘れずに自分自身で行ってください。

- エンジン オイル……{規定量入っているか。／漏れはないか。}
- ガソリン……残量
- 各部の締付け……ゆるみ、ガタはないか。
- バッテリ液……レベルまであるか。
- オーガ、ロック ボルト、ブロア、オーガ ハウジング等の損傷については、特に点検を行ってください。
- 異常個所はなかったか。
- その他異常を感じたら、ただちにお買いあげ販売店へお申しつけください。



定期点検

点検項目＼点検時間		作業前点検	初　回 20時間目	除雪時期 初めの点検	（毎　年） 終りの点検
エンジン オイル	点検 交換	○	 ○	 ○	
油圧オイル	点検 交換			○	 3年毎※
主変速機オイル	点検			○	
オーガーミッションオイル	点検			○	
バッテリ	液量の点検 比重の点検	○		○ ○※	
点火プラグ	点検、清掃			○	
クローラ	張り調整			○	
除雪部（オーガ、ブロア オーガ ハウジング、ロック ボルト）				○	
ボルト、ナット	増締め			○	
燃料ろ過カップ	清掃				○
気化器燃料、燃料タンク	抜き				○
格納時の各部防錆塗油					○
走行クラッチ	点検、調整			◎※	
オーガ クラッチ ワイヤ スロットル、チョーク ワイヤー 投雪距離調節ワイヤー	点検 調整			◎※	
駆動ベルト	点検、調整			◎※	
走行ベルト	点検、調整			◎※	
オーガーベルト	点検、調整			◎※	
吸入・排気弁すき間	点検 調整	5年毎又は300時間毎			
燃料タンク、燃料ろ過網	清掃	5年毎又は300時間毎			
燃料チューブ	交換	3年毎※			

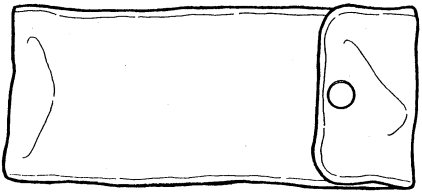
◎印のついていた項目は消耗部品であり使用条件により交換時期がかわります。機能が正常でなくなった時、交換してください。

※印のついた項目は適切な工具と整備技術を必要としますので、お買いあげ販売店へお申しつけください。

携帯工具と付属部品

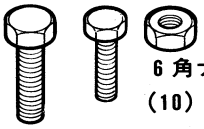
工具は点検・整備にかかすことのできないものです。常に携帯してください。

同梱工具



ツール バック

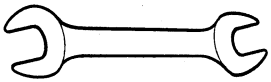
付属部品



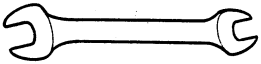
6 角ナット
(10)

ボルト 10mm (10)

ボルト 8 mm (5)



スパナ 14×17



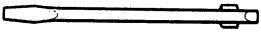
スパナ10×12



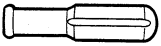
ワッシャ 8 mm (5)



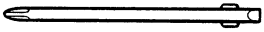
ワッシャ 10mm (10)



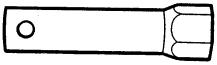
(−) ドライバ



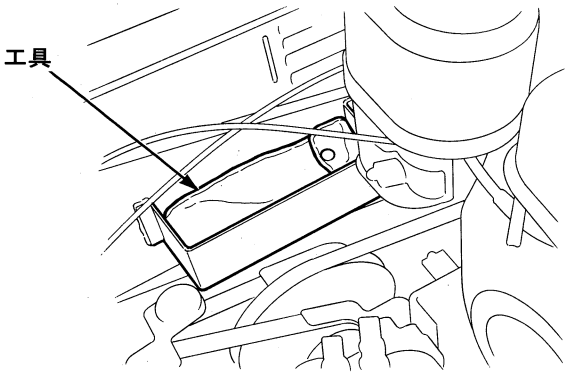
ドライバ ハンドル



(+) ドライバ



プラグ レンチ



エンジン オイルの交換

エンジン オイルが汚れていると摺動部や回転部の寿命を著しく縮めます。交換時期、オイル容量を守りましょう。

《交換時期》

初回 20 時間目、以後：年一回除雪時期の初め

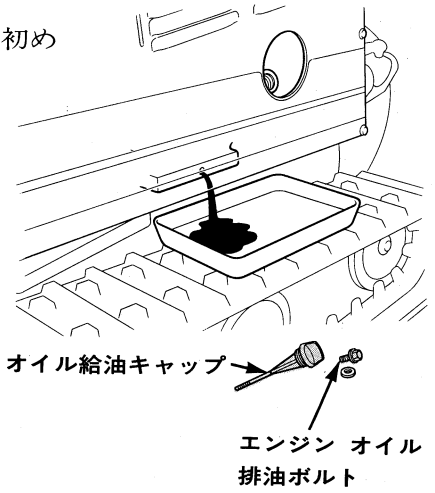
《推奨オイル》

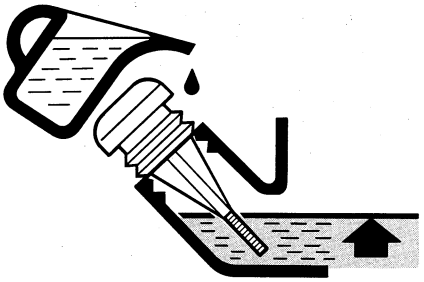
SAE5W－30または API 分類 SE 級相当のエンジンオイル

《規定量》 1.1 ℓ

《交換のしかた》

1. オイル給油キャップ、排油ボルトを外してオイルをぬきます。
2. オイルがぬけたら排油ボルトを確実に締めつけます。
3. 新しいエンジン オイルをオイル給油キャップの上限まで注入します。
4. 注入後キャップを確実に締めつけます。





注意 ・エンジン停止直後にオイルを抜く時は、オイルの温度が高いので火傷に十分注意してください。

点火プラグの清掃、調整

電極が汚れたり、電極の間隙が不適当ですと、完全な火花が飛ばなくなりエンジン不調の原因になります。

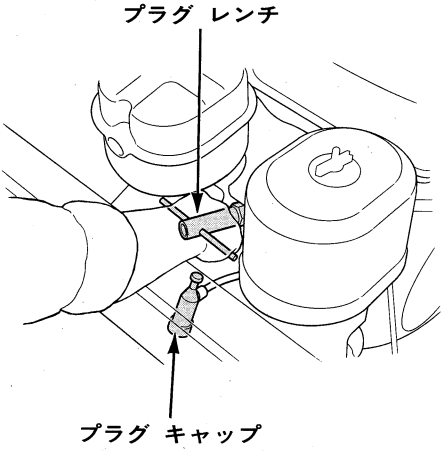
《清掃時期》

年一回除雪時期初めの点検

《清掃のしかた》

1. ボンネットを開けてください（19 頁参照）。
2. プラグ キャップを取り外してください。
3. プラグ レンチ(同梱工具)で点火プラグを取り外します。
4. プラグの清掃はプラグ クリーナを使用するのが最も良い方法です。お買いあげ販売店をご利用ください。

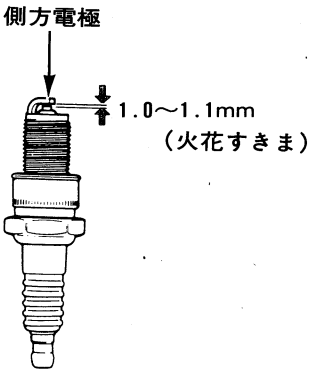
・プラグ クリーナが無いときは、針金かワイヤ ブラシで汚れを落してください。



《調　整》

<調整のしかた>

側方電極を曲げて火花すきまを 1.0～1.1 mm に調整します。



《指定プラグ》

BP5ES-11(NGK)
W16EP-U11(ND)

注意

・指定以外のプラグを使用しないでください。
・エンジン停止直後は温度が高いので、やけどをしないよう注意してください。
・プラグの取付けは、ねじ山をこわさないようにまず指で軽くねじ込み、次にプラグ レンチで確実に締付けてください。
・点検調整後はプラグ キャップを確実にセットしてください。確実にセットしないとエンジン不調の原因になります。

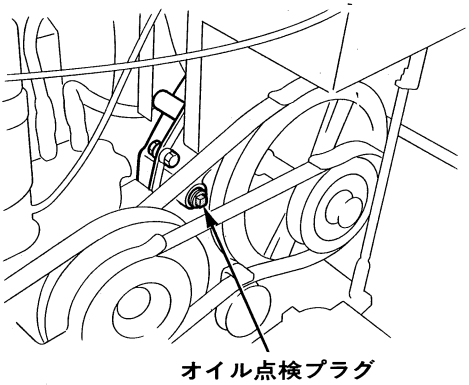
変速機オイルの点検

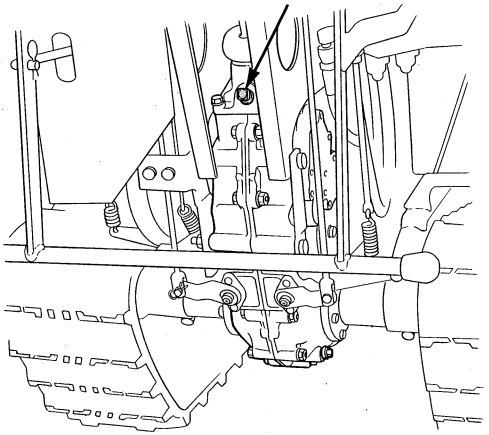
《点検時期》

年１回除雪時期初めの点検

点　検

ボンネットを開けオイル点検プラグを外し、点検口の口元までオイルがあるか点検してください。

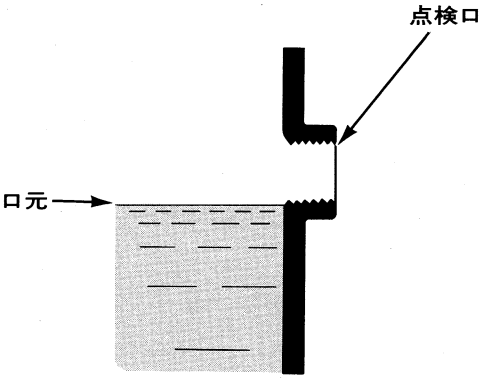




補　給

油面が低いときは、オイル給油プラグを外して新しいオイルを口元まで補給してください。

推奨オイル：ギヤ オイルSAE＃90



油圧ポンプ オイルの点検

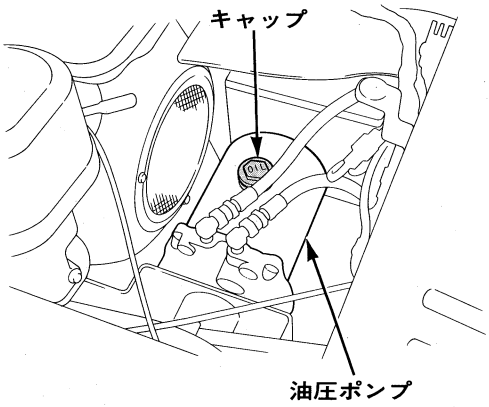
注意 ・点検する前にオーガ調節レバーでオーガを下側いっぱいまで下げてください。

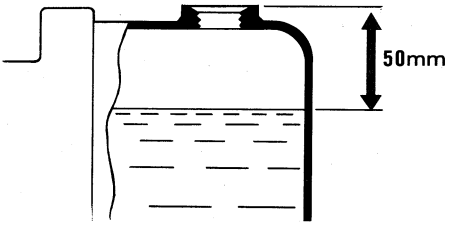
《点検時期》

年1回除雪時期初めの点検

点　検

19頁を参照してボンネットを開けて、油圧ポンプのキャップを外し、油面から注入口までの高さが約50 mmになっているか点検してください。





補　給

油面が低いときには、新しいオイルを規定量になるまで補給してください。

推奨オイル：SAE 5 W-30またはAPI分類SE級相当のエンジン オイル

オーガ ミッション オイルの点検

《点検時期》

年一回除雪時期初めの点検

《点検のしかた》

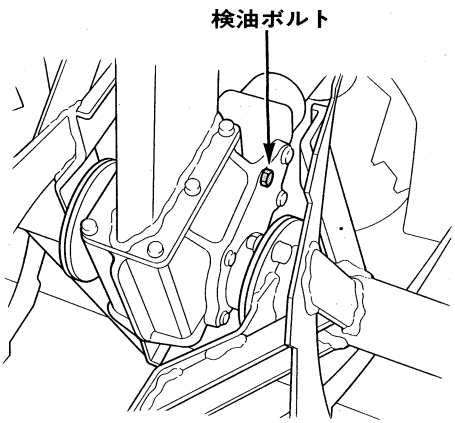
検油ボルトを外し、注入口の口元までオイルがあるか点検します。少ない場合は、注油ボルトを外し、検油ボルトの口元までオイルを入れます。

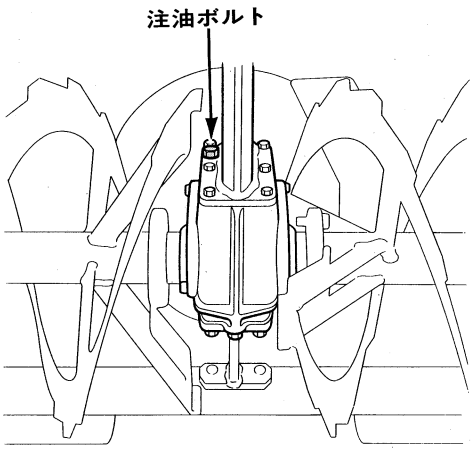
《推奨オイル》

ギヤ オイル SAE 90 #

《規定量》

0.8 ℓ





クローラ張り調整

クローラの張りが正常でないと脱輪したり、寿命を著しく縮める原因になります。

《点検時期》

年１回除雪時期初めの点検

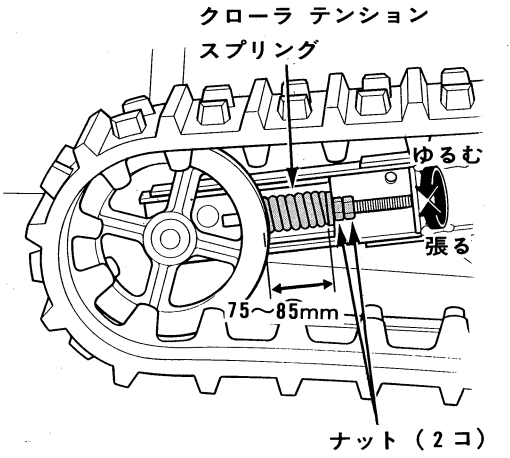
《点検のしかた》

クローラ テンション スプリングの寸法が 75～85 mm になっているか点検します。

《調整のしかた》

1. テンション ボルトのナット２コをゆるめて規定寸法になるように調整してください。
2. 調整後２コのナットを確実に締付けてください。
3. 左右同じ方法で点検、調整してください。

注意
- クローラ ゴムが凍結している時は正しい張り調整ができません。必ず凍結を取り除いてから調整してください。
- 調整後本機を前、後進させ再度寸法を点検してください。

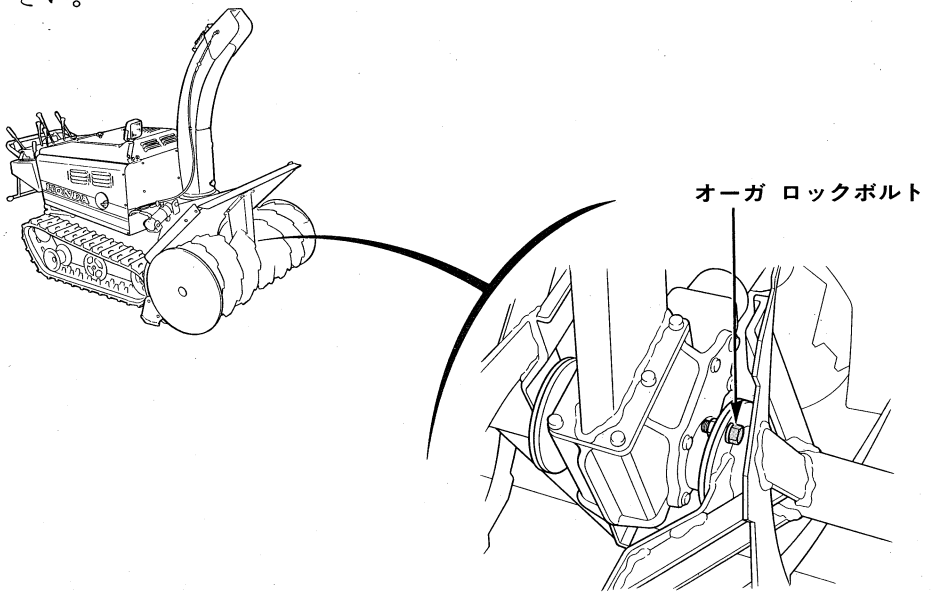


除雪部の点検

オーガ、オーガ ハウジング、ブロアに損傷のないことを点検します。
オーガ ロック ボルトのゆるみ、折れを点検します。
もし折れている場合は下記の手順で同梱されているオーガ ロック ボルトと交換してください。

ボルトの交換方法

1.本機を平坦な場所に水平に止めてください。
2.オーガ クラッチ レバーを**〝切〟**にしてください。
3.走行クラッチ レバーを**〝切〟**にしてください。
4.オーガ調節レバーでオーガをいちばん下まで下げてください。
5.エンジン スイッチを**〝停止〟**にして、点火プラグ キャップを外し各回転部が停止している事を確認してください。
6.オーガ ブロワの凍結または異物(石、棒、針金等)を取り除きます。
7.除雪部を点検してください。
8.折れたボルトを取り除き、新しいボルトと交換し、確実に締め付けてください。



ヒューズについて

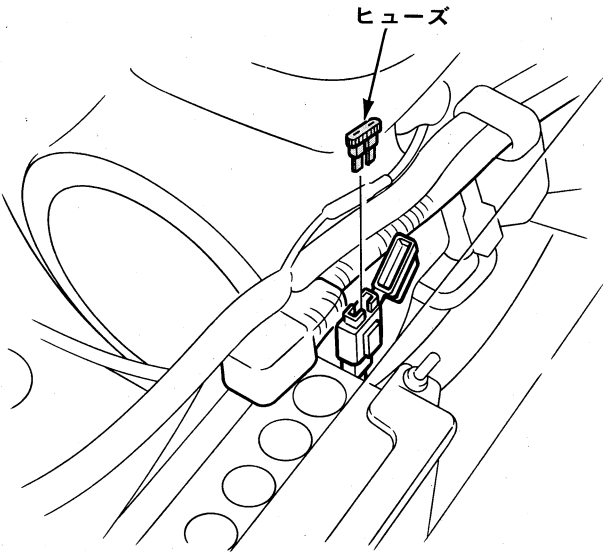
ヒューズが切れたらその原因を調べてから規定容量（5 A）のヒューズに交換してください。そのまま交換しても再び切れる恐れがあります。

注意　・指定ヒューズ以外のもの、たとえば針金、銀紙などを使用すると配線コードなどを焼損させる原因となりますので、絶対に使用しないでください。

《交換のしかた》

1.ボンネットを開けてください（19 頁参照）。

2.切れたヒューズを新品のヒューズ（5 A）と交換してください。



長期間使用しない時の手入れ

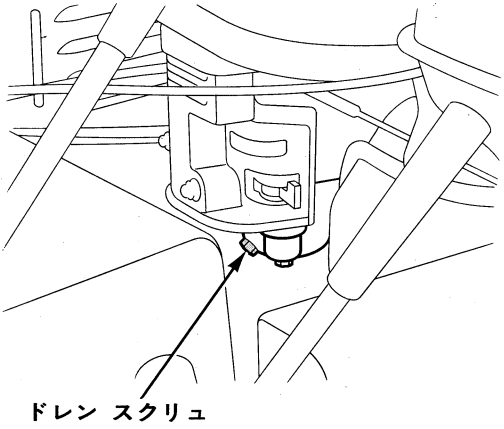
降雪シーズンも終わり長期保管する時は、次のシーズンも快適にお使いいただくために次のことを必ずお守りください。

保管するときはエンジン スイッチ キーを外してください。

1.燃料タンク、気化器(キャブレータ)のガソリンをぬきます。

〈ぬきかた〉

1.燃料コックレバーを〝出〟に合わせます。
2.気化器のドレン スクリュをゆるめてガソリンを容器に受けます。
3.完全にぬけたらドレンスクリュを確実に締めます。
4.燃料コックレバーを〝止〟にします。

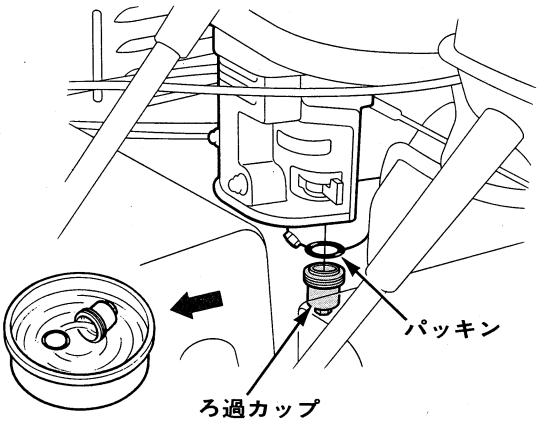


注意
・燃料をぬくときは火気厳禁。
・ぬいた燃料は十分に注意して保管してください。

2.燃料ろ過カップの清掃

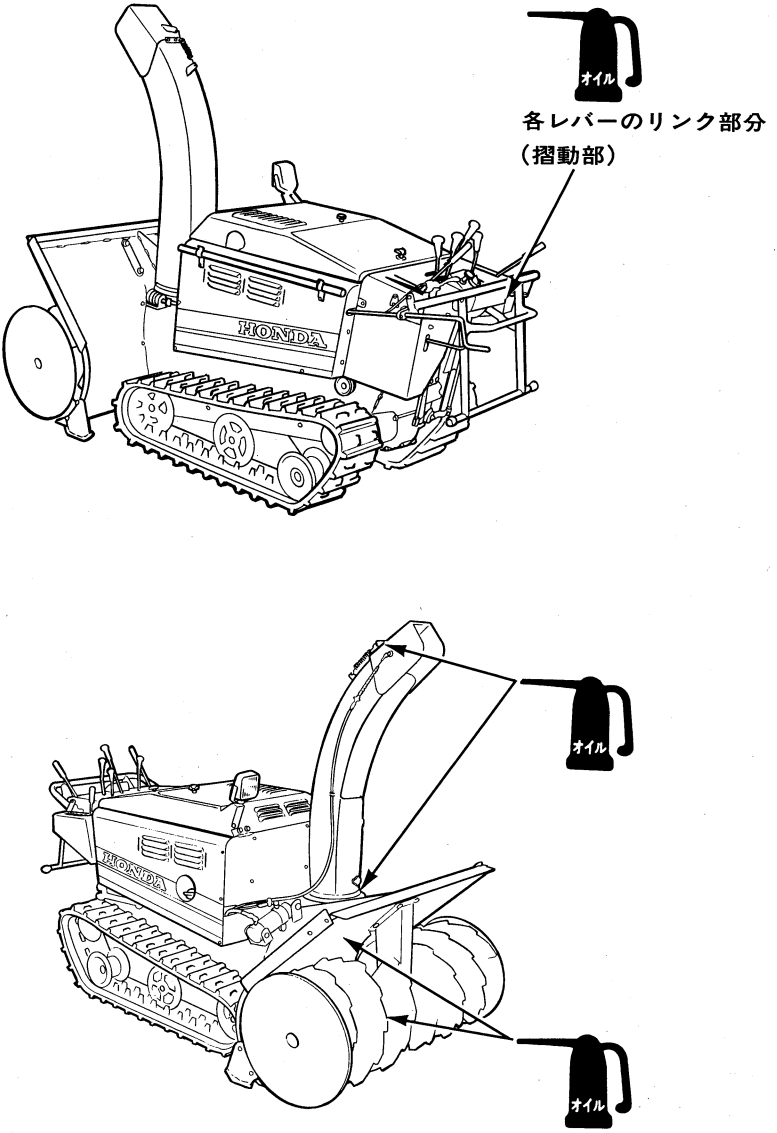
1.カップを外し洗油で洗浄します。
2.パッキン、カップを取り付け確実に締めつけます。

注意 火気厳禁



3.保管時の給油箇所

以下の個所にオイルを注油してください。



4.保管中はバッテリの㊀端子を外しておいてください。

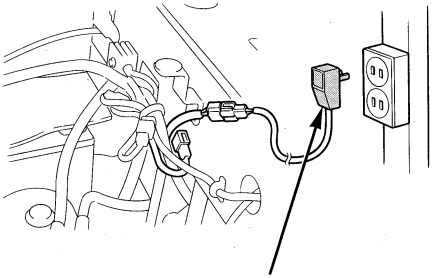
5.バッテリの手入れ

長期間使用しない場合、または作業を終わり長期間格納する場合は6ヵ月に一度および除雪時期の初めと、終りに補充電を行ってください。
充電器は別売指定充電器(お買いあげ販売店へお申しつけください)または市販の充電器をご使用ください。

補充電のしかた

指定充電器の場合

①カプラを取り外してください。(青色)
②充電器のリード線カプラをオス側カプラに接続してください。
③充電時間：40時間～80時間
④補充電後は必ずカプラを元の位置に結合してください。



注意
・カプラが外れたままではセルモータは回わりません。

市販充電器の場合

○バッテリは本機より取り外して補充電を行ってください。
○バッテリの配線は正確に行ってください。接続時は㊉側から接続し、はずす時は㊀側からはずしてください。
○充電時間：2.8Aで約10時間(標準)
○端子のゆるみ、腐触は接触不良の原因となります。ゆるんでいる時は確実に締付けてください。端子に白い粉がついている場合は、お湯で清掃し、グリースを塗布してください。

注意
・バッテリを取扱う時はショートによる火花や火気に注意してください。バッテリからは可燃性のガスが発生しているので爆発の危険があります。
・バッテリ液は希硫酸です。目や皮ふにつくとその部分は侵されますので十分注意してください。万一、付着した時は、すぐ多量の水ですくなくとも5分間以上洗浄し、専門医の診断をただちに受けてください。

故　障　の　と　き　は

むやみに分解しないで、はやめにお買いあげ販売店で点検整備をしてもらうことが、除雪機を長持ちさせる秘けつです。

始動しないときは次の点を確かめましょう。

・ガソリンはありますか？

・燃料コック　レバーは**〝出〟**の位置になっていますか？

・オイルは規定量ありますか？

・走行クラッチ　レバー、オーガ　クラッチ　レバーは〝切〟の位置になっていますか？

・点火プラグから火花が出ますか？

プラグ　キャップを外し点火プラグを取り外して、プラグ　キャップに取付け、プラグをエンジンにアースさせ(感電を避けるためにプラグ　キャップ以外には触れないでください。)エンジン　スイッチを**〝始動〟**にします。この時、プラグの電極に火花が飛ぶか確認します。この点検をする前に、シリンダやその他の所にガソリンが付着していないか確認してください。ガソリンが付着していると引火するおそれがあるので蒸発するのを待つか、またはぼろきれで完全に拭きとってから行ってください。

注意　・この点検は風通しのよい場所で行ってください。

・始動方法は、取扱説明書どおりですか？

～～～～～～～～少し時間をおいて
もう一度確めましょう～～～～～～～～

主　要　諸　元

名　　称	ホンダ　HS1110Z
型　　式	SAC

エ　ン　ジ　ン

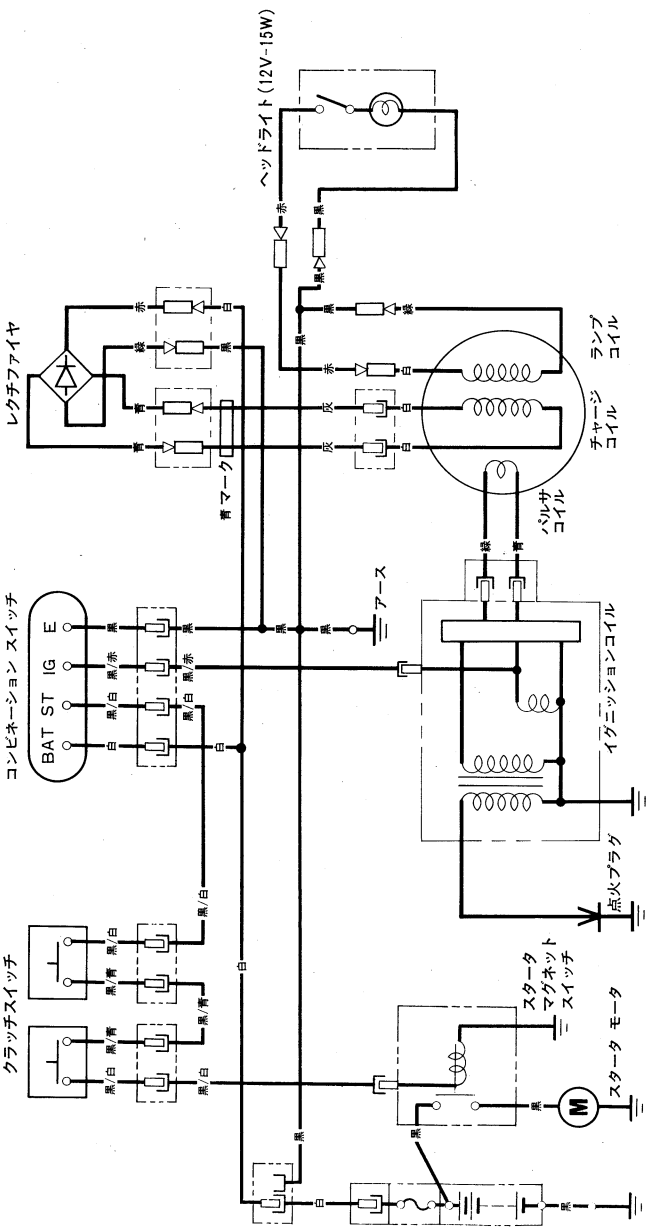
名　　称	ホンダエンジン GX340
最　高　出　力	11.0HP/3600r.p.m
排　気　量	337㎤
内　径　×　行　程	82×64㎜
始　動　方　式	セル スタータ
点　火　方　式	トランジスタ点火方式
オ　イ　ル　容　量	1.1ℓ
燃料タンク容量	7.0ℓ
点　火　プ　ラ　グ	BP5ES(NGK)．W16EP-U(ND)

フ　レ　ー　ム

全　　長	1,920㎜
全　　幅	1,000㎜
全　　高	1,550㎜
乾　燥　重　量	388kg
除　雪　幅	1,000㎜
除　雪　高	700㎜
投　雪　距　離	最大15m(雪質および投雪方向により異なります。)

注意．諸元は改良のため予告なく変更することがあります、ご了承ください。

配　線　図



	BAT	ST	IG	E
OFF			○	
ON				
ST	○	○		

コンビネーションスイッチ接続表

	BAT	ST
PUSH	○	
RTN		

クラッチスイッチ接続表

メ　　モ

メ　モ

HONDA
本田技研工業株式会社
東京都港区南青山2－1－1

30755601
00X30-755-6010

Ⓝ 1008712

ホンダ

スノーファイター

HS1110Z

取扱説明書